

【垂下式水中カメラ撮影】

スポット 番号	緯度		経度	
1	-	-	-	-
2	-	-	-	-
3	-	-	-	-
4	-	-	-	-
5	-	-	-	-
6	-	-	-	-
7	-	-	-	-
8	-	-	-	-
9	-	-	-	-
10	-	-	-	-

【 UAV 撮影（オーバーラップ撮影）】

調査地点	緯度		経度	
1	-	-	-	-
2	-	-	-	-
3	-	-	-	-
4	-	-	-	-

(5) 調査年月日 令和元年 8 月 19 日、20 日

(6) 調査者 三洋テクノマリン株式会社 代表：北野慎容
株式会社エル技術コンサルタント 代表：石田翔吾

(7) 調査海域の概要

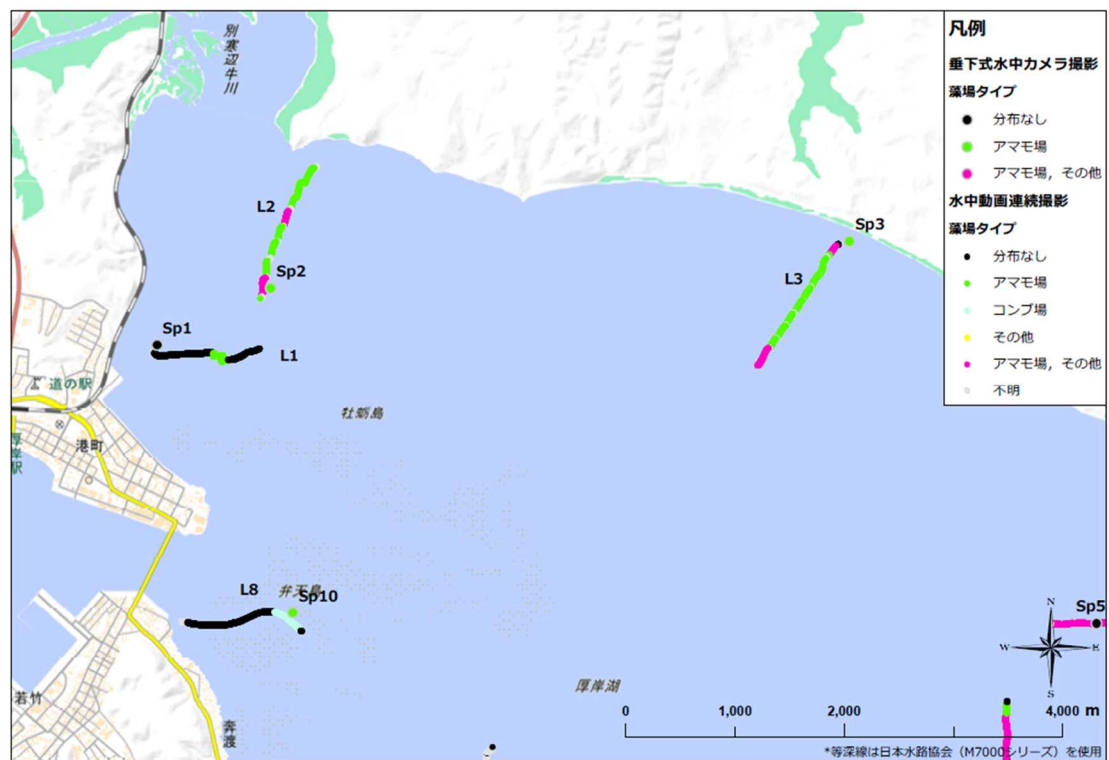
湖口周辺のアサリ礁として利用される干潟域を除く全域では、平坦な湖底地形で砂泥を主体とする底質が広がり、アマモが高密度に分布する（大島ら，2006）。湖奥部は干潮時に大部分が干出する浅場であり、この場所にはアマモが分布していない（塩沢，1969）。

年間平均風速は 8.0 m/s を以上であり、洋上風力施設設定可能な海域（極浅海域・砂質域）が近隣に存在する。

《参考》大島ら（2006）厚岸湖における有用二枚貝を取り巻く物質循環モデル，日本ベントス学会 61 号，p.66-76：塩沢（1968）厚岸湖および厚岸湾の底質，地質学雑誌 75 巻，p.1-11

(8) 調査結果

【水中動画連続撮影】○測線 1～3 の状況

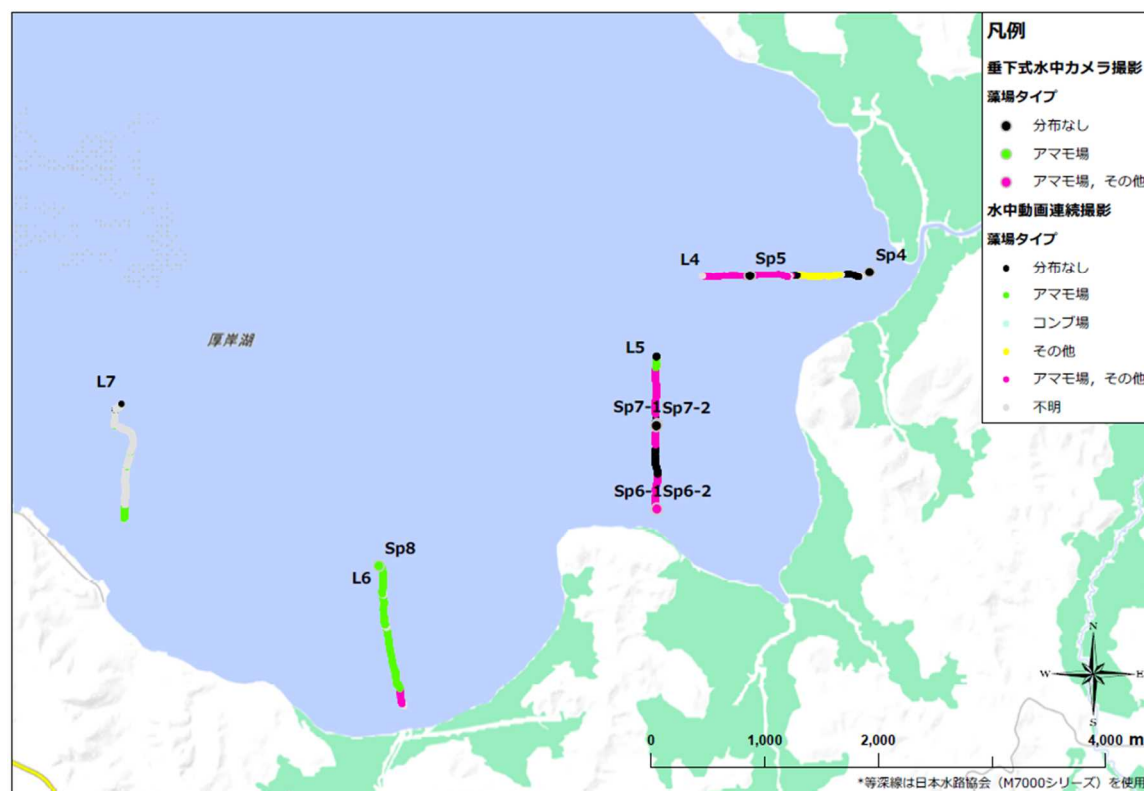


測線 1 の状況：水深 1 m 程度で、砂泥が一面に広がる測線であった。測線の岸よりではアマモが被度 5%未満～20%で観察され、湖中央部に向かうに従い海藻草類はみられなくなった。

測線 2 の状況：水深 1 m 程度で、砂泥が一面に広がる測線であった。測線全体でアマモ類（被度 5%未満～20%）やホソジュズモ（被度 5%未満～5%）、オゴノリ（被度 5%未満～10%）が観察された。

測線 3 の状況：水深 1 m 程度で、砂泥が一面に広がる測線であった。測線全体でコアマモを含むアマモ類（被度 5%未満～20%）や緑藻類（被度 5%未満）、紅藻類（被度 5%未満）が観察された。

○測線 4～8 状況



測線 4 の状況：水深 1 m 程度で、砂泥が一面に広がる測線であった。測線の岸よりでは砂泥が広がるが海藻草類はみられなかった。沖に向かってシオミドロ（被度 5%未満）がみられるようになり、その後アマモ類（被度 5%）や緑藻類（被度 5%未満）が観察された。

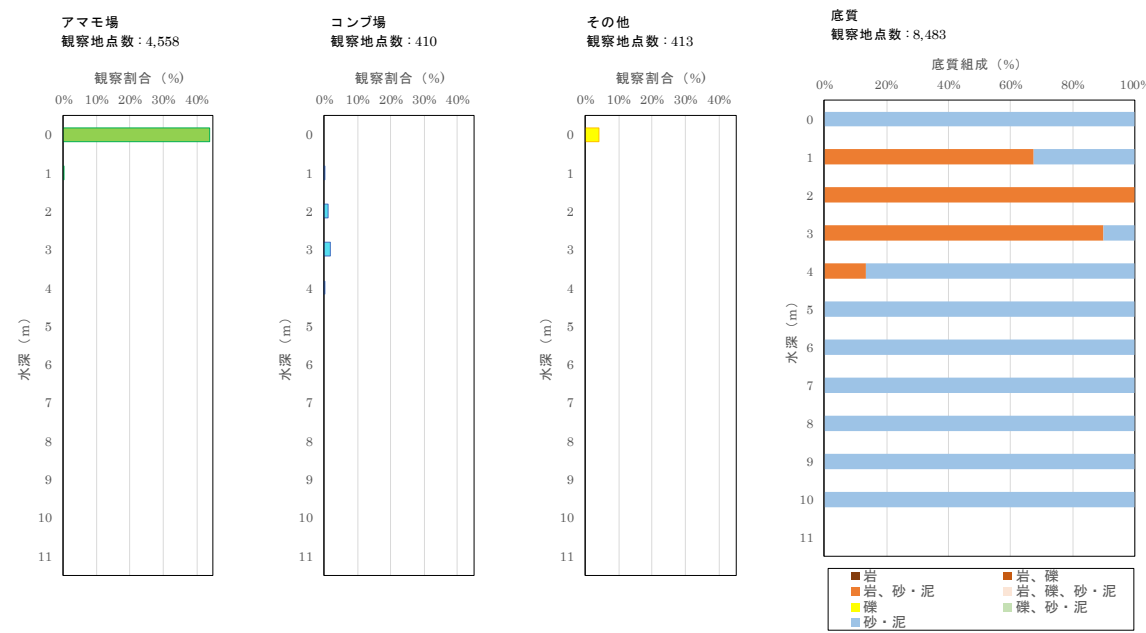
測線 5 の状況：水深 1 m 程度で、砂泥が一面に広がる測線であった。測線全体でアマモ（被度 5%）や緑藻類（被度 5%未満）、紅藻類（被度 5%未満）が観察された。

測線 6 の状況：水深 1 m 程度で、砂泥が一面に広がる測線であった。測線全体でコアマモを含むアマモ類（被度 5%未満～20%）や緑藻類（被度 5%未満）、オゴノリ（被度 5%未満～10%）が観察された。

測線 7 の状況：水深 1 m 程度で、砂泥が一面に広がる測線であった。測線の岸よりではアマモ（被度 5%未満～50%）、緑藻類（被度 5%未満）が観察された。湖中央部に向かうに従い、海藻草類はみられなくなった。

測線 8 の状況：水深約 4～10 m で、砂泥を主体とする測線であった。測線の湖口部付近では海藻草類はみられず、アサリ増殖場周辺の水深 3 m 付近でエナガコンブが被度 5%で観察された。

【各藻場タイプにおける鉛直頻度分布図】



注：観察割合 = 各藻場タイプが観察された地点数 / 総観察地点数 10,345 地点

【垂下式水中カメラ撮影】

垂下式水中カメラ撮影の結果は以下のとおりで、湖全域を通じて広くアマモやコアマモの海草が観察され、その他にホソジュズモ、オゴノリ、シオミドロがみられた。厚岸湖湾奥部ではアマモ類を含む海藻草類がみられなかった。

地点番号	水深 (m)	主要な構成種	底質	備考
Sp1	0.7	分布なし	4	-
Sp2	0.5	アマモ 30%、緑藻類+、紅藻類+、 ホソジュズモ+、シオミドロ+	4	-
Sp3	0.5	オゴノリ+、コアマモ 5%、ホソジュズモ+	4	-
Sp4	0.6	分布なし	4	-
Sp5	1.2	分布なし	4	-
Sp6-1	0.9	分布なし	4	-
Sp6-2	0.9	緑藻類+、アマモ+	4	-
Sp7-1	1.2	緑藻類+、アマモ+	4	-
Sp7-2	1.2	分布なし	4	-
Sp8	1.3	緑藻類+、アマモ 5%	4	-



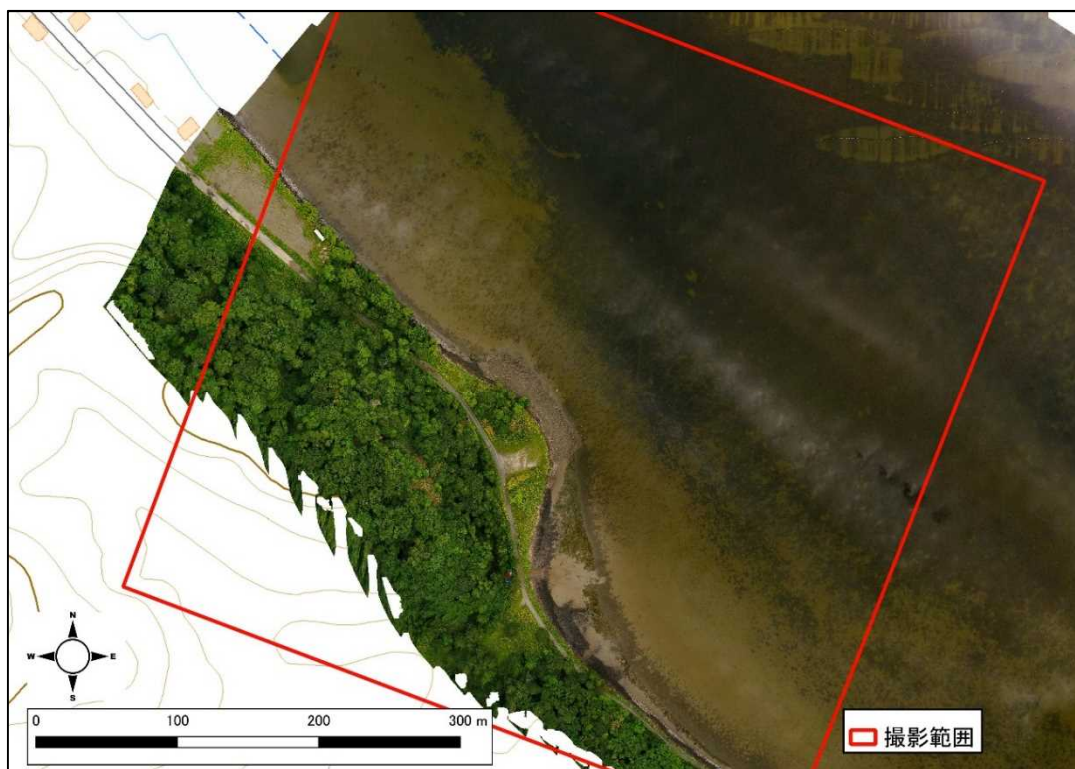
アマモ 水深約 1 m



コアマモ 水深約 1 m

【UAV 撮影】

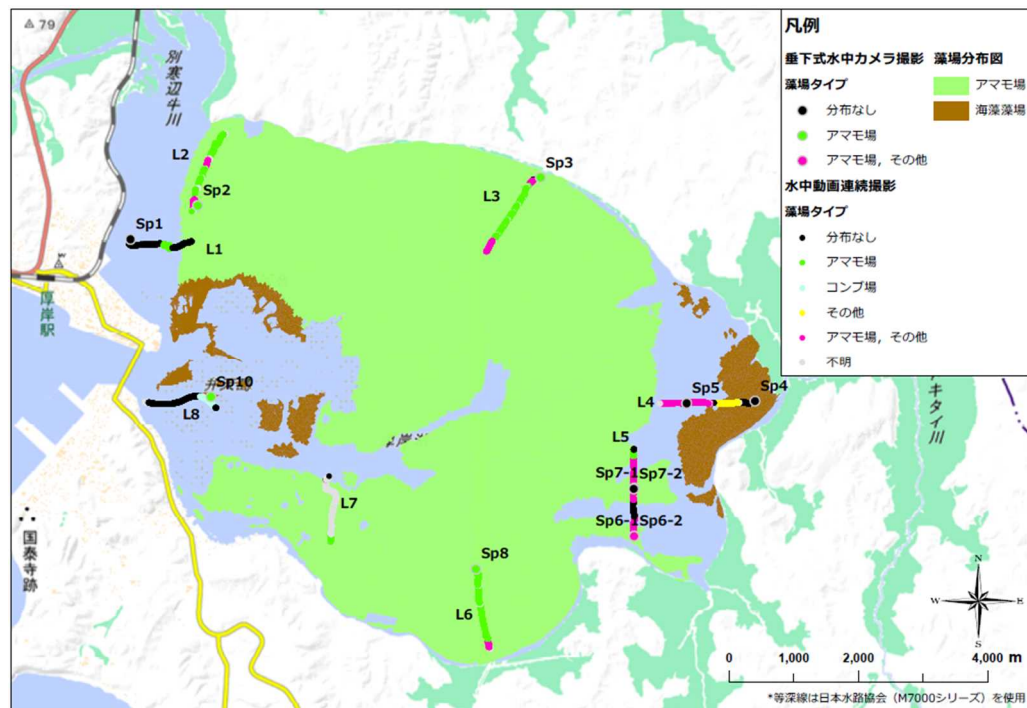
300m 四方のオーバーラップ撮影の結果、300m 四方全域でオルソ化された。本海域は流入河川の影響で濁りの影響が強い海域で、海藻の明確な識別は困難であった。



撮影時間	潮位 (m)	風向・風速	波高 (m)	撮影高度 (m)	備考
08:25-08:33	CDL0.34m	南西・0.5m/s	0m	145.0m	-

*潮位は、霧多布海上保安庁の推算潮位

(9) 藻場分布図



(10) まとめ

海域全域でアマモやコアマモの海草が観察され、海藻ではホソジュズモ等の緑藻類、シオミドロ等の褐藻類がみられた。湖口部は二枚貝の漁場となっている干潟が造成されており、その縁部に設置された岩礁帯ではエナガコンブが観察された。

(11) その他特記事項

別寒辺牛川からの流入水の影響で湖内全域は広く濁りが発生しており、カメラの映像がやや不明瞭になることが多かった。また湖の広い範囲で漁業者のブイが並んでおり、計画した測線上をまっすぐ曳航することが困難な場面があった。



湖内に設置されたブイ 1



湖内に設置されたブイ 2